

古文ドリル：格助詞「にて・とて・して」識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「にて・とて・して」の3用法

形	接続	用法
にて	体言・連体形	場所・時間・手段・原因
にて (資格・状態)	体言+にて	～として (例：御供にて参る)
とて	体言・引用文	引用・原因
して	体言・連用形	使役対象・道具・共同

「にて」の用法

場所

京にて生まる。「京で生まれる」

時間

三日にて帰る。「三日で帰る」

手段

弓にて射る。「弓で射る」

原因

嵐にて舟壊る。「嵐で舟が壊れる」

「とて」の用法

引用

「行く」とて立ちぬ。 『行く』と言って立った」

原因

病気とて休む。 「病気だと言って休む」

「して」の用法

使役対象

人して取らす。 「人を使って取らせる」

道具

手して書く。 「手で書く」

共同

我れして行く。 「私と一緒に行く」

識別の鉄則

1. 「にて」 → 場所・手段・原因
2. 「とて」 → 引用・原因（「と」を含む）
3. 「して」 → 使役対象・道具・共同

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 直前の名詞のジャンル で用法が9割決まる

- **場所・地名** (京・宮・山) +にて → **場所** 「～で／～において」
- **道具・物品** (弓・筆・手・舟) +にて／して → **手段・道具** 「～で」
- **人物** (人・童・男) +して → **使役対象** 「～に命じて／～を使って」
- **時間量** (三日・一年・しばし) +にて → **時間** 「～の間で」
- 名詞のジャンルを見た瞬間に訳語が決まる。

コツ② 「とて」は引用がほぼ8割

- 直前に **発言・思考・引用文** があれば即「引用」と訳す。
- 『～』とて」「～とて／～と思ひて」の形が頻出。
- 「病気とて」のような **理由・名目** で出る場合のみ「～と称して／～だからといって」と訳す。

コツ③ 「して」は直前が人なら使役、物なら道具

- 「人して」「童して」「侍して」 → **使役の対象** (人を使う)
- 「手して」「筆して」「舟して」 → **道具・手段**
- 「我して／我れして」 → **共同** 「～と一緒に」
- 人か物かを瞬時に分類するだけ。

コツ④ 訳語は「で」をまず当ててみる

- 「にて／して」は迷ったら「**で**」を当てると場所・手段・原因のどれかに収まる。
- 「とて」は迷ったら「**と言って／と思って**」を当ててみる。
- 訳が日本語として通る方が正解。

試験本番でのチェック順序

1. 形を確認 (にて／とて／してのどれか)
2. 直前の名詞のジャンルを見る (地名・道具・人・時間)
3. 用法を一発で決める (場所／手段／使役／引用)
4. 念のため訳を当てて確認

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「**にて**」を断定「なり」連用形「に」+接続助詞「て」と取り違える → 連体形+にてなら格助詞、用言の連用形+にてなら断定系の可能性あり
- 「**とて**」を格助詞「と」+接続助詞「て」と分解できる場合もあるが、訳が同じなら気にしない
- 「**して**」をサ変動詞「す」連用形+接続助詞「て」と取り違える → 直前が体言なら格助詞「して」

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
 - 標準 (Q21~Q50) : /30
 - 応用 (Q51~Q80) : /30
 - 入試レベル (Q81~Q100) : /20
 - 合計 : /100
-

【第1部】 基礎編 (Q1~Q20)

Q1. 識別せよ。

京にて生まる。

Q2. 識別せよ。

「行く」とて立ちぬ。

Q3. 識別せよ。

弓にて射る。

Q4. 識別せよ。

病とて休む。

Q5. 識別せよ。

人して取らす。

Q6. 識別せよ。

三日にて帰る。

Q7. 識別せよ。

嵐にて舟壊る。

Q8. 識別せよ。

御供にて参る。

Q9. 識別せよ。

「来たり」とて喜ぶ。

Q10. 識別せよ。

手して書く。

Q11. 識別せよ。

友して行く。

Q12. 識別せよ。

公の使ひにて遣はす。

Q13. 識別せよ。

戦とて逃げ出づ。

Q14. 識別せよ。

弟して仕事せしむ。

Q15. 識別せよ。

一日にて仕上ぐ。

Q16. 識別せよ。

「待たれよ」とて告ぐ。

Q17. 識別せよ。

紙して包む。

Q18. 識別せよ。

川にて舟漕ぐ。

Q19. 識別せよ。

子して書かしむ。

Q20. 識別せよ。

「我れも」とて乗りぬ。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

用法の細かい違い、引用と原因の判別。

Q21. 識別せよ。

寺にて行ふ。

Q22. 識別せよ。

「いざ給へ」とて誘ふ。

Q23. 識別せよ。

太刀にて斬る。

Q24. 識別せよ。

風邪とて寝給ふ。

Q25. 識別せよ。

童して買はしむ。

Q26. 識別せよ。

七日にて京着く。

Q27. 識別せよ。

大雨にて川越え難し。

Q28. 識別せよ。

「あはれ」とて涙ぐむ。

Q29. 識別せよ。

筆して書きあらはす。

Q30. 識別せよ。

兄して行かしむ。

Q31. 識別せよ。

庭にて遊ぶ。

Q32. 識別せよ。

主君して遣はす。

Q33. 識別せよ。

「やすからず」とて怒る。

Q34. 識別せよ。

馬にて駈く。

Q35. 識別せよ。

友して遊ぶ。

Q36. 識別せよ。

海にて死ぬ。

Q37. 識別せよ。

「世を捨てむ」とて山に入る。

Q38. 識別せよ。

矢にて射殺す。

Q39. 識別せよ。

風邪気味とて伏す。

Q40. 識別せよ。

童子して遣はす。

Q41. 識別せよ。

山中にて経読む。

Q42. 識別せよ。

「我れ知らず」とて逃ぐ。

Q43. 識別せよ。

半日にて読み終ふ。

Q44. 識別せよ。

言葉にて論ず。

Q45. 識別せよ。

我れ二人して詠み交はす。

Q46. 識別せよ。

「明日来む」とて別る。

Q47. 識別せよ。

油断にてしくじる。

Q48. 識別せよ。

道具して作る。

Q49. 識別せよ。

「夢のごとし」とて嘆く。

Q50. 識別せよ。

君の御供にて参り給ふ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

引っかけ・敬語連動・微妙な判別。

Q51. 識別せよ。

御使ひにて遣はさる。

Q52. 識別せよ。

「あはれ」とて涙落としつ。

Q53. 識別せよ。

御文して奉る。

Q54. 識別せよ。

雨いみじく降るに、出でやらず。

Q55. 識別せよ。

大納言して取り寄せしむ。

Q56. 識別せよ。

「いとうれし」とてほほゑむ。

Q57. 識別せよ。

三人して舟漕ぐ。

Q58. 識別せよ。

海路にてこそ参るべけれ。

Q59. 識別せよ。

「われも」とて走り寄る。

Q60. 識別せよ。

童して御文奉らす。

Q61. 識別せよ。

法師にて世を渡る。

Q62. 識別せよ。

「行幸あり」とて参る人多し。

Q63. 識別せよ。

一人して山に住む。

Q64. 識別せよ。

蓑にて身をおほふ。

Q65. 識別せよ。

「あさまし」とて嘆くこと多し。

Q66. 識別せよ。

笛して呼び寄す。

Q67. 識別せよ。

我れひとりにて過ぐす。

Q68. 識別せよ。

老いの身とて心細し。

Q69. 識別せよ。

御車にて渡らせ給ふ。

Q70. 識別せよ。

「念じよ」とて励ます。

Q71. 識別せよ。

二人しておもしろき歌詠む。

Q72. 識別せよ。

御所にて御遊びあり。

Q73. 識別せよ。

「いと心憂し」とて泣く。

Q74. 識別せよ。

鳥して御文を遣はす。

Q75. 識別せよ。

病ひにて世を捨つ。

Q76. 識別せよ。

「御前へ召せ」とて人を遣はす。

Q77. 識別せよ。

心してこと行ふ。

Q78. 識別せよ。

ふみにて告げ給ふ。

Q79. 識別せよ。

「ゆかし」とて寄り給ふ。

Q80. 識別せよ。

国守して召し下す。

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出の判別問題。

Q81. 識別せよ。

ある男、宮にて仕うまつる。

Q82. 識別せよ。

「夢のここちす」とてさらに起きず。

Q83. 識別せよ。

牛にて車を引かす。

Q84. 識別せよ。

心ばへよきこととてもてはやさる。

Q85. 識別せよ。

上達部して御文奉らす。

Q86. 識別せよ。

朝霜にて草凋む。

Q87. 識別せよ。

「世にあらじ」とて世を背く。

Q88. 識別せよ。

御文にてころざしを述ぶ。

Q89. 識別せよ。

我して遣はす人はあらじ。

Q90. 識別せよ。

あけぼのにて鶏鳴く。

Q91. 識別せよ。

「行きやらず」とて泣き伏す。

Q92. 識別せよ。

童して祈らしむ。

Q93. 識別せよ。

山伏にて諸国を巡る。

Q94. 識別せよ。

「いま参り来む」とて急ぎ出づ。

Q95. 識別せよ。

翁、つえにて身を支ふ。

Q96. 識別せよ。

「あさましきことなり」とて人々あざ笑ふ。

Q97. 識別せよ。

弟子して読み習はす。

Q98. 識別せよ。

物にて包みて遣はす。

Q99. 識別せよ。

「世のため」とて自らをかへりみず。

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

8割（80点）以上で入試対応レベル。

あしがき

「にて・とて・して」識別の核心： - 「にて」 → 場所・手段・原因（最頻出） - 「とて」 → 引
用・原因（「と」を含む） - 「して」 → 使役対象・道具・共同
接続と意味の両方で判別。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotenosenensei.com>